

かずさアカデミアパークで講演会開催
『リスクマネージメントと看護記録』

平成十二年十月十五日(日) かずさアカデミアパークにて「リスクマネージメントと看護記録」というテーマで看護婦を対象とした講演会が行われた。講師は聖路加看護大学教授の岩井郁子先生で、今回の講演は三回目となった。



タイムリーなテーマで200名以上参加の講演会

医療・看護の世界に今やリスクマネージメントは欠かせない内容からである。近年、医療事故や医療訴訟の話題が新聞に載らない日はないと言っているくらいである。その背景には社会一般の目が病院に対して情報公開を積極的に求めるようになったこと、充分な説明を受け納得して治療を受けるといったインフォームドコンセントの考えが浸透してきたということがあげられる。患者さんの命を預かる医療現場としては当然のことであり、その中で看護記録は看護の質を表すと同時に、いざ事

な説明を受け納得して治療を受けるといったインフォームドコンセントの考えが浸透してきたということがあげられる。患者さんの命を預かる医療現場としては当然のことであり、その中で看護記録は看護の質を表すと同時に、いざ事が起きたときには事実を証明する重要な診療記録のひとつとなる。患者さん自身はもちろん、ご家族の方やまた医療者にとって、正しい情報を伝えていくための看護記録はどうあるべきかを考えさせられる内容であった。

日曜日にもかかわらず、院外二十五施設からの参加を含め二百四名もの参加があり、看護の分野においてリスクマネージメントの関心がいかに高まっていることが感じられた講演会であった。

当院の実習生の受け入れ状況

一昨年より帝京平成短期大学看護学部より看護実習を受け入れ始め、昨年も前期(四〜七月)五十九名、後期(九〜十二月)五十八名の看護実習が行われた。八月から十一月には木更津看護婦高等学校の看護実習が透析室と坂田クリニックで行われた。医事課では千葉情報経理専門学校より二名、成田国際福祉専門学校より一名、大原簿記専門学校より二名の三〜四週間にわたる医事課実習が行われた。

年頭の「ごあいさつ」

平成十二年 元旦
 特定医療法人 玄々堂君津病院 院長 茅野 嗣雄



あけましておめでとうございます。昨年、年初より「財」日本病院機能評価機構」の受審準備

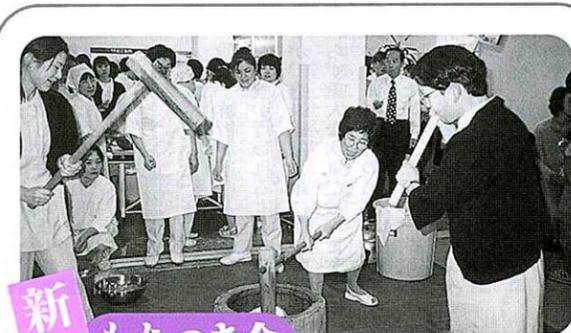
備を行い七月受審、九月二十二日「所定の認定基準に達している」とされ認定証の発行をいただきました。短期間の準備期間でしたが、「改善要望事項」は該当事項なく、「留意事項」として、「診療情報の活用促進」ならびに「リハビリテーション」の整備を指摘されました。本年は、留意事項二点の整備とともに、受審準備中に明らかにな



医療を取り巻く現状は必ずしも楽観を許さぬ状況ではありませんが、地域に根ざした開かれた病院として今後も全職員挙げて努力していく考えであります。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

千葉県透析研究会 当院も参加

平成十二年十二月二十六日、千葉県透析研究会が開催された。おおよそ八〇名の参加者があり、医師部門・看護部門・技術部門の三つの会場に分かれ、八十五



新春もちつき会 21世紀を迎えて気分を新たに

一月四日、外来ホールで恒例の餅つき会が開催された。巳年の男女が杵をふるって餅をつき、二〇〇一年の新年を祝った。



また、岡山晴美栄養士、鳥海昌子薬剤師、石川淳子看護婦からも、それぞれの立場から合併症予防をテーマに、食生活、薬、皮膚疾患、フットケアなどについて、話があった。

クラーク・ナースエイドのための 初リーダーシップ研修

最近の社会の動きとして、仕事に対し自覚性、主体性が求められるようになってきている。当院のクラーク、ナースエイドの人数も年々増えてきており、その専門性が高まってきている。その中で、それぞれがチームワークを高めリーダーシップを発揮していきけるよう、今回の研修が組まれることとなった。研修は、十一月十八日に院内で十二月八日は君津メデイカルスポーツセンターにて、二十二人の参加をもち、講義やコミュニケーションなどを通して行われた。ゲ



専門性、チームワークを高める研修会



演題が発表され活発な討論がなされた。

当院からは看護部一演題、臨床工学科四演題の発表が行われた。平成十二年十一月二十六日、千葉県透析研究会が開催された。おおよそ八〇名の参加者があり、医師部門・看護部門・技術部門の三つの会場に分かれ、八十五

糖尿病教室開催

平成十二年十一月十一日、当院外来主催で糖尿病教室が開かれ、患者さん二十四名の参加があった。荻野良郎内科部長を講師とし、

忘年会で 一年の締めくくりを

平成十二年十二月十六日、ベイプラザホテル観月にて、恒例の忘年会が行われた。総勢二八四名の参加者のもと盛大に行われ、一年間の労をねぎらった。

秋の職員小旅行 お台場での食卓会

平成十二年十月十七日、二十四日、三十一日と小旅行が行われた。今回は、お台場のホテル日航東京に於ける食卓会であり、三日間で多数の職員が参加があった。夕方までは自由行動で各々の秋を満喫したようである。食卓会では、他部署の職員との交流を深め、心身ともにリフレッシュできた。(関連記事四面に掲載)



外來ホールに響きわたるクリスマスソング

特集 病院機能評価

玄々堂津病院は、二〇〇〇年九月二十二日、財団法人日本医療機能評価機構(JCQHC)による、病院の質をチェックする評価制度「病院機能評価」の審査を受け、一定の水準と評価された「認定書(一般病院種別A)」を取得した。

この認定書は、病院の諸問題に取り組む意欲を一層高める為に発行されるものであり、その病院の基本的な性格、地域特性、経営面での諸条件等を考慮し、指摘された問題点の背景や改善・解決の実現性等を十分に検討した上で発行される。

日本では、全国九四二三病院のうち、認定申請している病院は四六五病院にすぎず、全病院の5%にも満たない。さらに認定された病院は、今回の当院を含め三七〇病院と、着手するには大きな課題を抱えている病院が少なくはない状況にある。千葉県内の病院の中では、八病院が認定病院となっている。

JCQHCによる病院機能評価とは、一般病院・精神病院・長期療養病院を対象に第三者評価を行う病院の現状と問題点を明確にするものである。第三者による評価導入による効果

病院機能評価総括

日本医療機能評価機構

貴院は、昭和47年新都市医療研究会を母体として「いつでも、どこでも、誰もが、最高の医療を」という設立趣旨に呼応した医師のグループにより津津市に設立された。現在では一部に三次医療を含む急性期医療を主体とした198床の地域中核病院となり、同一特定医療法人内の2クリニック、2訪問看護ステーションと相互に連携を図りながら地域のニーズに応えている。

貴院では設立趣旨として上記の理念に基づき、実践すべき医療の方向が示され、医療の主体は「患者」にあることを社会的にも早い時期に職員に提示して、文字通り患者を中心とした医療が実践されてきた。その精神は職員によく浸透し、院内の随所から汲み取ることができた。

以下に、各領域のまとめを記す。

「1. 病院の理念と組織的基盤」では、病院の理念・基本方針が確立され、職員にもよく認識されている。事業計画はおおむね適切に作成されているが、計画の達成状況の評価とそれに基づく計画の修正は、今後の課題である。職員の教育・研修については、活発な活動が行われていると判断されるが、各部門の自律的な活動に見合う教育・研修予算を配分できる体制の整備を望みたい。

「2. 地域ニーズの反映」は、地域の保健・医療・福祉の状況など十分に把握され、それに基づいて自院の役割も明確にされていた。地域の医療機関との連携に関してはやや弱い部分があるものの、情報提供については返書や紹介状などに細かい配慮がみられた。地域の予防活動や広報活動についてもよく協力、努力されていて評価できる。救急医療および退院後の療養環境については特に重点的に配慮され、関連施設との協調のもとに満足すべき状況にあるものと評価した。ただし将来的には、長期療養施設との連携を補強していく必要があるように見受けられた。

「3. 診療の質の確保」に関しては、診療の責任体制は確立されているが、診療録に記載された検査および治療計画では不十分と思われた。病院としてせっかくインフォームド・コンセントを重視する方針を示されているので、記録もそれに伴って充実されることを望みたい。診療録の管理システムは評価できるが、診療情報を利用するシステムの構築を是非とも図られたい。検査部門、画像部門、薬剤部門、輸血部門に関してはほぼ適切と評価された。手術部門もよく整備されており特に指摘する事項はないが、リハビリテーション部門に関しては要員、設備ともに充実が望まれる。感染防止対策については、院内感染のサーベイを強化されることが望ましい。緊急時の対応はそれなりに整備されているものと評価した。

「4. 看護の適切な提供」では、看護部門の組織的な運営は、おおむね良好になされている。教育・研修を行うための人的資源の確保と環境整備の水準は高く、やりがいがあり働きやすい職場環境の整備に向けた努力は高く評価される。看護ケアの提供にあたっては、看護計画に基づいて実施されており、患者や家族の希望も反映されている。しかし提供された看護ケアについての評価とそれを看護計画に反映させるための記録方法等については再検討が必要であり、今後の改善に向けた取り組みに期待したい。

「5. 患者の満足と安心」では、建物構造上の問題があり、厳しい状況ではあるが、それなりに努力がなされている。従って療養環境の快適性に関しては一部難があるものの、プライバシーへの配慮、接遇などについては良好な状態であると評価した。ただしインフォームド・コンセントについては、特に力を入れて活動されている割には記録類の不備が散見されたので、さらにレベルの向上を目指した改善を望みたい。また、患者・家族に対して、希望や意見が自由に述べられることの広報を進められたい。食事への配慮、待ち時間、院内の清潔管理、安全確保はおおむね良好であると評価された。

「6. 病院の運営管理の合理性」のうち、人事・労務管理面では、職員の総労働時間短縮問題や人事考課制度導入の問題に、今後に向けての課題が残されている。また財務管理に関しては、収支状況をより詳細に把握する手法として、「部門別収支」を集計するシステムが早期に確立されることを望みたい。

その他は、おおむね良好に運営されていた。

果は、医療機関が自らの位置づけを客観的に把握でき、改善すべき目標もより具体的・現実的になる。そして、問題点について共通した認識を持つことができ、職員の自覚と改善意欲が醸成される。また、認定された内容を提示することは、医療に対する信頼を向上させる事につながるという点にある。

評価は、病院機能の現状調査、自己評価調査による書面審査が行われ、その分析結果をもとに訪問審査が行われる。その内容は、

- ① 病院の理念と組織的基盤
- ② 地域ニーズの反映
- ③ 診療の質の確保
- ④ 看護の適切な提供
- ⑤ 患者の満足と安心
- ⑥ 病院運営管理の合理性
- ⑦ 種別に特有な機能

国民の医療に関する信頼を揺るぎないものとし、その質の一層の向上を図るために、病院を始めとする医療機関の機能を学術的観点から中立的な立場で評価し、その結果明らかとなった問題点の改善を支援する第三者機関。厚生省をはじめ、日本医師会、日本病院会など、保健・医療・福祉に関する団体等が出資、一九九五年七月二十七日設立。

主に医療現場の経験(診療・看護・事務の管理職経験者、その他の医療専門職経験者等)から、一定の要件により選ばれる。病院機能評価の他に、病院機能改善支援、評価調査者の養成事業、医療機能評価に関する研究・開発事業、医療機能評価に関する普及・啓発事業を行っている。

評価調査者(サーベイヤー)は、



「一般病院種別A」の認定書

それぞれの立場から語る 過去五年間の医療進歩と今後の展望

いよいよ二十一世紀。この節目にあたり、今回と次回(二回にわたって)過去五年間の医療進歩と今後の展望」と題して各部署からのコメントを掲載したいと思います。



副院長 武部 太郎



事務部長 山口 稔



看護部長 大神ヨシ子

まず患者さん本人への説明が最も重要視されて真実が告げられるようになり、その病態に応じた多様な治療が患者さんの同意のもと行われるようになりました。また、胆石や腸、肺の手術が内視鏡下行われ、キズが小さく入院期間が短くなりました。昨年は腎移植に成功、透析患者総数四九〇名の透析センターは腎センターの機能を保持するようになりました。外来も総合診療、専門外来ともに充実を図り、救急室の独立設置と二十四時間受け入れ態勢により年間六〇〇〇例以上の急患を受け入れました。消化器内視鏡は上部で年間三〇〇〇、下部は一〇〇〇件となり様々な内視鏡処置を行いました。

また、数年前より患者さんの高齢化に伴う種々の問題への対応として、介護部分を主体的に担って貰うナースエード夜勤体制を導入して患者さんの安全対策やADLの低下予防を図って来ました。

これは情報公開が更に進み、真の情報提供を日常的に行うようになります。手術室は減り、多様な治療の一法になるでしょう。遺伝子解析が進むと、より根本的な治療が行われるようになり、感染症は人類にとつて相変わらず重大な病気だし、ますます増加する高齢者の医療が本格的であるとは思えません。病気の新たな病気が出現し、より困難な事態になる可能性がますます。病気の挑戦はまだ続きます。

- 一、医事課を外来医事、入院医事と分離していたものを一体に統合し、業務の効率化を図る。
- 二、医事用パソコンの新機種導入を図り、正確で迅速な保険請求業務化を図る。
- 三、受付に自動受付機を導入、省力化を図る。
- 四、保険請求資格の取得に努力し、医事課職員の能力の平均化を図る。
- 五、受付会計を業務委託化し、業務内容の整理化を図る。
- 六、院内メールを設備し、院内連

七、経理課要員の増員を行い経理業務の強化を図る。八、事務部定例会議、各課定例会議の定例化を図る。以上の様な取り組み、対応を継続してまいります。

シリーズ”病気を考える“ 腎臓の病気の話

30

先生、蛋白尿が出たのですが…



腎臓内科医長
中尾尚之

腎臓のしくみは？

正常の腎臓は左右に二個、背中側で胸とおなかの境より少し下くらいに位置し、握りこぶしを作り少し開いたくらいの大きさです。ソラメそっくりの形をしており、内側から一本の管(尿管)が出ており骨盤内の膀胱につながっています。腎臓にはもう二本の管(腎動脈と腎静脈)と呼ばれ、腹部大動脈からの枝が左右二本腎臓に入ります。その血管は腎臓の中でどんどん細くなり顕微鏡で見ないとわからないくらい細い血管(輸入細動脈)になります。その血管が糸球体と呼ばれる尿を作る工場につながっています。糸球体のイメージは木になっている果物を想像すればいいです。太い幹が腎動脈、果物の茎にあたる所が輸入細動脈です。輸入細動脈は糸球体内に入り毛細血管という本当に薄い血管になりちよう毛糸だまのように絡み合っています。ここで血をこして毒素や水分を尿として体外に出します(濾過、ろか)。腎臓の働きの重要な点はただ濾過しているのではなく、体の水分やそれに溶けている電解質(ナトリウム・カリウムなど)や酸アルカリのバランスを体内で一定範囲に保つように調節を行っているとい

腎不全とは？

腎不全とは腎臓の働きが落ちていくことを意味しています。なんらかの原因により一時的に働きが落ちた場合は急性腎不全といいますが、それ以外の場合は慢性腎不全と呼んでいます。慢性腎不全を起こす病気はたくさんありますが、その頻度は慢性腎炎と糖尿病が一番です。慢性腎炎とは糸球体というところに炎症が起こり(簡単に言うと家に火事が起きた)程度の差はあれその機能が障害された状態をいいます。ボヤボヤに家に住むことができません(腎機能が保たれている)、大火事なら人は住むことはできない(腎機能が悪い)。

蛋白尿が出たのですが…

蛋白尿について説明します。腎臓病の患者さんはほとんど自覚症状がありません。そこで、腎臓病が発見されるきっかけは尿の検査(尿検査)です。通常の検査には尿検査という項目があります。尿に蛋白を浸して、蛋白や潜血(見た目は尿が赤くないという意味)を陰性から++++まででその程度をあらわしています。尿を採るときは注意は中間尿を取ることです。出始めと終わりの部分の尿をコップに入れないで真ん中の部分だけをとるということです。皮膚やその他の部位からの分泌物が尿に混入することを防ぐためです。蛋白尿が出るとはどのようなことを意味しているのでしょうか？先ほどの家の火事の例で引き続き説明しましょう。蛋白尿とは火事の現場からの煙です。当然火事の程度に応じて立ち上がる煙の程度が違います。腎炎もその程度が重いと蛋白尿もたくさん出ます。糖尿病腎症も然りです。蛋白尿の有無とその程度は非常に重要です。しかし問題点もあります。腎臓病の中には、たくさん蛋白尿が出ていても適切に治療を行えばまったく陰性になる病気もありです。一方で前述のテ

治療法は？

慢性腎不全の進行を阻止する治療の研究は当科も含め全世界で盛んに行われています。我々は最近かなり有力な方法も考案しました。ですが、基本的治療法について述べましょう。第一に食事です。腎不全がなぜ進行するかに関しての説明のひとつに過濾過説があります。すなわち、ある程度の糸球体が壊れてしまつた残り糸球体がその分だけ余分な濾過の仕事を行います。片手ハンドル・アクセルベタ踏み。みんなの冷たい視線を浴びてもセリカは今日も熱い走りや忘れないのである。車はシルバー。免許はゴールド。周りの人は「運がいいね」と言ってくれど…私の趣味はキーボード。後部座席

趣味の欄

私の趣味って？

経理課 村上浩子

「ブウォーン」今日もセリカは絶好調。天気は快晴ドライブ日曜日。片手ハンドル・アクセルベタ踏み。みんなの冷たい視線を浴びてもセリカは今日も熱い走りや忘れないのである。車はシルバー。免許はゴールド。周りの人は「運がいいね」と言ってくれど…私の趣味はキーボード。後部座席

病は氣から

済生会栗橋病院 外科部長 本田宏先生



昨年当院の緩和ケア研究会で講演をお願いした本田宏先生に、今回、君津市文化祭で行われた講演の内容をヒューマンのためにまとめて頂きました。

私達は困った時、なにげなく「四苦八苦する」と言います。この「四苦八苦」の意味を御存知ですか？これは仏教に由来する言葉で、四苦とは人間の最も根源をなす四つの苦しみ(生・老・病・死)をさすといわれています。生まれて生きる、年をとる、病気になる、そして死ぬ、この四つの苦しみは、二五〇〇年以上も昔のお釈迦様の時代から、ヒトにとつて避けて通れない大きな悩みと考えられていたのです。

昔は心と身体は一緒と考えられていましたが、十七世紀にデカルトが「心身二元論」を提唱して以来、科学は飛躍的に発達して、心と身体は別々の存在だと考えられるようになりました。現在では抗生物質、診断や治療技術の驚異的な発展によって昔は不治の病も、簡単に治せるようになり、二十一世紀には人の遺伝子が完全に解明され、人類は不老不死の夢を叶えようとしています。

一方、二十世紀後半にはストレスの心と身体の関係や、免疫学などの進歩により「精神神経免疫学」という学問が確立され、心と身体は科学的に説明できるようにになりました。そしてデカルトの定説にも見直しが行われることになってきたのです。今まさに昔から言われてきた「病は氣から」が科学的に解明され、心が種々の疾患の発病や、治療過程に密接に関連している可能性が叫ばれています。私達が自分自身

私は今後どんなに科学が進んでも、人には人種や年齢、さらに生まれた家柄によっても変わらないものがあると思います。それは他の動物や植物、そしてこの宇宙と同様に、この世に生を受けた瞬間から確実に死を運命づけられているという事実です。たとえ人類がいくら死をきらい湯水のごとく金をかけても結果的に死は誰にでも必ず平等に訪れるでしょう。地球そして地上に生命が誕生した時から、死は生の最終段階にある現象、生の一部なのです。

普段私達は死を忌み嫌うべきものとして目を背け、それを意識しないで生活しがちです。しかしその結果、逆に大切なことを見失って、本当に貴重な一分一秒、一日一日を無駄に過ごしてはいませんか？「死について考える」機会を持つことによって、健康のありがたさや生きる素晴らしさに気づき、その後の人生をよりよく生きることができるようになった人々も多いのです。私達に与えられたこのかけがえのない人生をどう生きるかはまさに私達一人一人の心の自由にかかっています。結果でなく生き方こそ、その人間の誇りです。さあ、あなたはどう生きますか？

君津講演会をまとめた。興味がある方は、インターネットの私のホームページを御覧いただければ幸いです。
http://www.04-u-page-so-net.ne.jp/zds/h-honda/index2.html



秋の職員小旅行

私たちはこのように過ごしました



電算室 桐越淳也

十月十七日、午前八時頃電話が鳴った。宮本さんからジョシチイに寄るから八時四十五分の電車に乗るのでその時間までに駅に集合ということだった。

時間を見たら、すでに八時五分を回っていた。前日までは一時に集合と聞いていたため、何も準備をしていないので急いで準備をした。八時三十分過ぎに準備完了し、駅へ走った。五分程で駅へ着いたが全然みんな集まっておらず、結局九時出発となったため、駅まで全力で走ってきたのが全く無駄になってしまった。

電車で二時間程、目的地へ到着。まずは商店街をうろつく。一通り見終わった後、昼食をした。午後は観覧車の近くのアトラクションのコーナーへ行った。そこはちよつとした遊園地という感じで三、四種類くらいのアトラクションで遊んだ。その後、また移動し、フジTVへ向かった。フジTVでは番組で



薬劑師 島海昌子
とても疲れた一日だったが、楽しい一日だった。

十月二十四日、病院小旅行の2班に参加させていただきました。雨女の疑いをかけられることもしばしばなのでお天気の心配をしていたのですが、秋晴れの中、楽しむことができました。まず新宿で映画「オータム・イン・ニューヨーク」を見ました。

行動を共にしたIさんに感動の涙を流させようと思ひ、感動の話題作としてこの映画を選びました。心にジーンとくる素敵なストーリーだったのですが、残念ながら涙させることはできませんでした。(ただ本編が始まる前の新作映画の短い予告で泣いていたとかで・・・)

その後、昼食は有名料理評論家がおいしいと絶賛していたカレーを思い出し、そのお店のカレーバイキングにしました。いろいろな種類が味わえて、また行きたいと思わせる食欲に火がつくおいしさでした。

お腹もいっぱいになり、次は大観覧車を目指してパレットタウンに向かいました。観覧車は一回り約二十分かかるほどの高さがあるため見晴らしも良く、窓から入ってくる風がすがすがしいものでした。そして最終目的のホテル日航ではおいしいお食事と東京タワーの見える美しい夜景を満喫することができ、充実した楽しい一日を過ごすことができました。

KさんYさんTの三人は、木更津から高速バスで羽田空港へ行き、そこからモノレールに乗り継ぎ老若男女に人気のとげ坂き地蔵へ参拝し、「痛いところや悪いところを直してくれる」と言うお地蔵様の顔を「美人になれます様に」と手ぬぐいで磨きお札を買いました。その後上野駅から地下鉄で浅草へ行き、そこでYさんと別れ、Kさんと私は雷門や浅草寺を散策しながらお土産の雷おこしや浅草煎餅、そして舟和の芋羊羹を買っていました。すると、なんと浅草寺の前で、若くてすてきなお兄さんに「お嬢さん！僕のオープンカーに乗りませんか？」てな具合で声をかけられたのです。思わずついていこうとしたらそこには三輪車のオープンカーがあったのです。そう、その素敵なお兄さ

んの誘いは、人力車の誘いだっただけです。それでも乗ろうとしたら運良くタイミング悪く「お待たせー！」とYさんが戻ってきてしまったのです。泣く泣くかっこいいお兄さんと別れ、隅田川ラインに架かる十二の橋や名所旧跡等を紹介する隅田川めぐりを楽しむ約四十分の船旅をし、目的地のお台場公園へ到着したのでした。レインボーブリッジを横から眺めとてすばらしい夜景でしたが、やっぱり花より団子の私は、おいしい夕食をお腹いっぱい食べ、幸せな気分になりました。

今日は「色々な乗り物を満喫した一日」でした。今度は絶対、素敵な彼を見つけて二人で来るぞー！

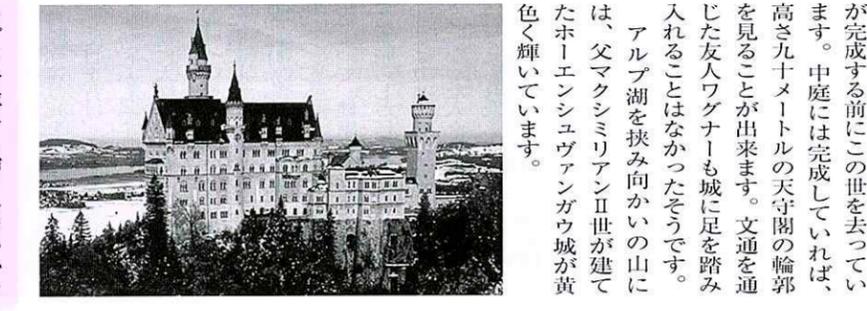
人事往来

看護部	3階A病棟
大塚	孝子(3階B病棟)
3階B病棟	渡邊 美和(集中治療室)
透析室	伊藤 みつゑ
木更津クリニック	(坂田クリニック)
重城	隆子(透析室)
看護部長室	赤坂 桂子(外来)
宮島	雅代(集中治療室)
村田	美紀(集中治療室)
阿部	美由紀
事務部	(木更津クリニック)
医事課	牧野 忍
木更津クリニック	(木更津クリニック)
濱田	志信(医事課)

* ()内は旧所属部署

サブタイトルはノイシュバンシュタイン城

ノイシュバンシュタイン(Neuschwanstein)はドイツロマンティック街道の最終地、フッセンに位置し、ドイツとオーストリアの国境近く、アルプスの麓に位置する小さな村ホーエンシュバングアウにあります。この白亜の城はバイエルンの森にひっそりたたずむその姿から「白鳥の城」とも称される美しい城です。ウォルト・ディズニーがシンドレラ城のモチーフとしたことで有名ですが、内部は扉の取っ手が白鳥であったり、洞窟を模した部屋まであるそうです。

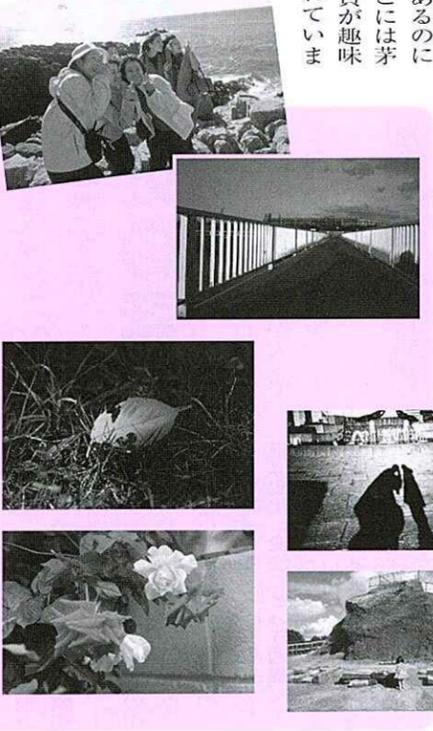


が完成する前にこの世を去っています。中庭には完成していれば、高さ九十メートルの天守閣の輪郭を見る事が出来ます。文通を通じた友人ワグナーも城に足を踏み入れることはなかったそうです。アルプ湖を挟み向かいの山には、父マクシミリアン二世が建てたホーエンシュヴァンガウ城が黄色く輝いています。

プロ野球早く始まんないかな
I. S・H
◆ここで豆知識！ルーズ・リーフってペットボトルから出来る(リサイクル)って知ってた？
E・N
◆それって「フリス」の事じゃないの・・・今年も先がおもいやられるな。
E・T
◆出来るか出来ないかではなく、やるかやらないかだーという言葉を噛み締めて、今後取り組んでいきたいと思ひます。
N・S
◆今回の発行で卒業です。三年間ご協力ありがとうございました。
H・S
◆今年で任期満了です。途中で何度もくじけながら、沢山の方々のおかげで五年間無事に終える事ができました。どうもありがとうございました。
Y・M

フォトギャラリー GEEZ GEEZ

待合室に写真が飾ってあるのにお気づきでしょうか。ここには茅野院長をはじめとする職員が興味で撮った写真が展示されています。きれいな写真から、奇妙なものまでジャンルを選ばず展示していくつもりです。待ち時間の長い時などにいらんになってみてください。



S・OSAKI

「今年もサンタさん来るかな」「プレゼントは何だろう？」とみんなが楽しみにしているクリスマス。玄々堂の保育所にも、サンタクロースがトナカイさんと一緒にプレゼントを持ってやってきました。毎年子供達と一緒に手作りのクリスマス会を行っています。



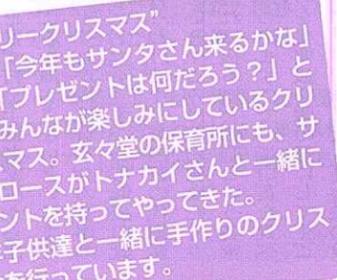
サンタさんといっしょにハイチーズ！



おいしい！クリスマスのごちそうだよ



わーい！サンタさんだ



サンタさんからプレゼント嬉しいなア！

編集後記

◆二十一世紀第一号に歴史を刻みました。本年もよろしく。 M・Y

◆新しい年を迎えまた一つ〇〇に近づく。お肌も頭もリフレッシュして今年も頑張るぞ！ E・S

◆今年から羽毛布団にしました。やっぱり暖かい。 W・I

◆二十一世紀になっても何も変わらないのは僕だけでしょうか？ S・O

◆昨年には心に残る釣行が少なかった。今年は釣りまくりたい。 Y・T

◆正月から大忙し。今年はどうな一年になるだろう？ H・O

◆大好きな冬なのに肌乾燥して粉ふきいも状態。来年には、小じわもでてくるかなあ。 S・K

◆プロ野球早く始まんないかな I. S・H

◆ここで豆知識！ルーズ・リーフってペットボトルから出来る(リサイクル)って知ってた？ E・N

◆それって「フリス」の事じゃないの・・・今年も先がおもいやられるな。 E・T

◆出来るか出来ないかではなく、やるかやらないかだーという言葉を噛み締めて、今後取り組んでいきたいと思ひます。 N・S

◆今回の発行で卒業です。三年間ご協力ありがとうございました。 H・S

◆今年で任期満了です。途中で何度もくじけながら、沢山の方々のおかげで五年間無事に終える事ができました。どうもありがとうございました。 Y・M